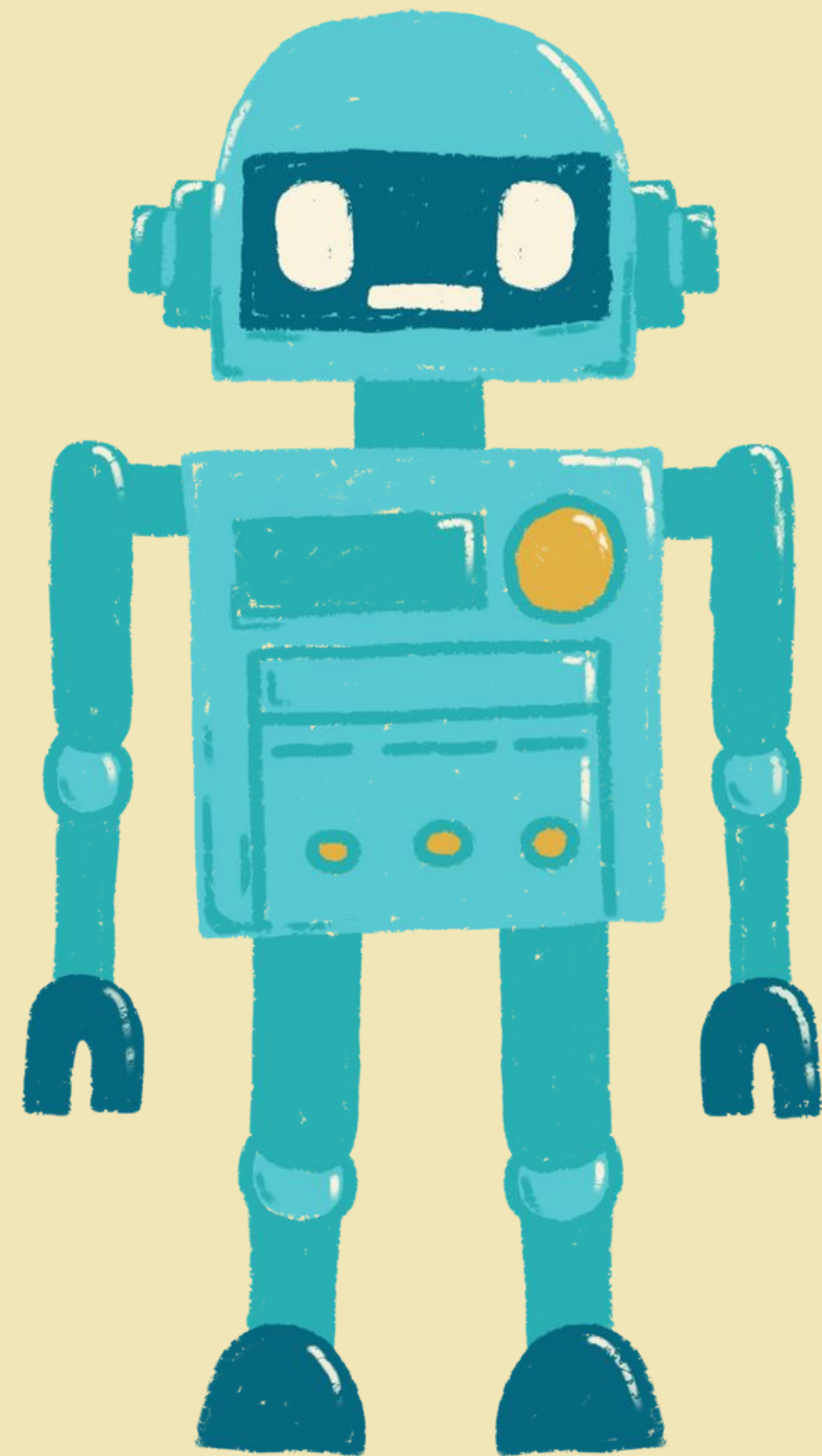


AI単語帳 WordWise

Description



WordWiseとは？

AI生成

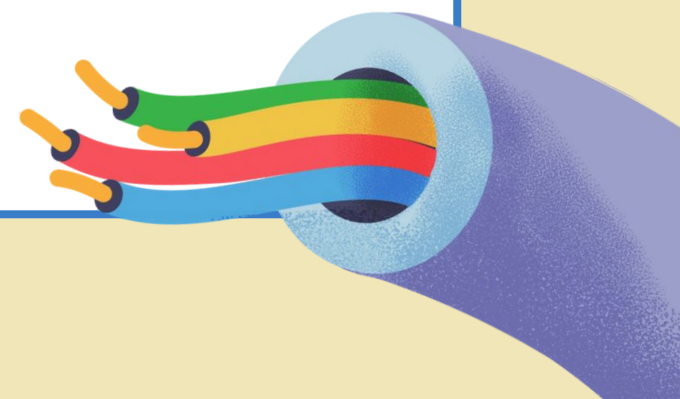
AIによる例文生成や類義語生成機能により、単語帳作成を効率化し、より単語学習に集中しやすい！

単語詳細登録

単語の意味を品仕事に登録可能！
他にも類義語、例文などの詳細情報を登録できる！

単語帳共有

他者が作成した単語帳をそのまま利用できる！



Agenda



1

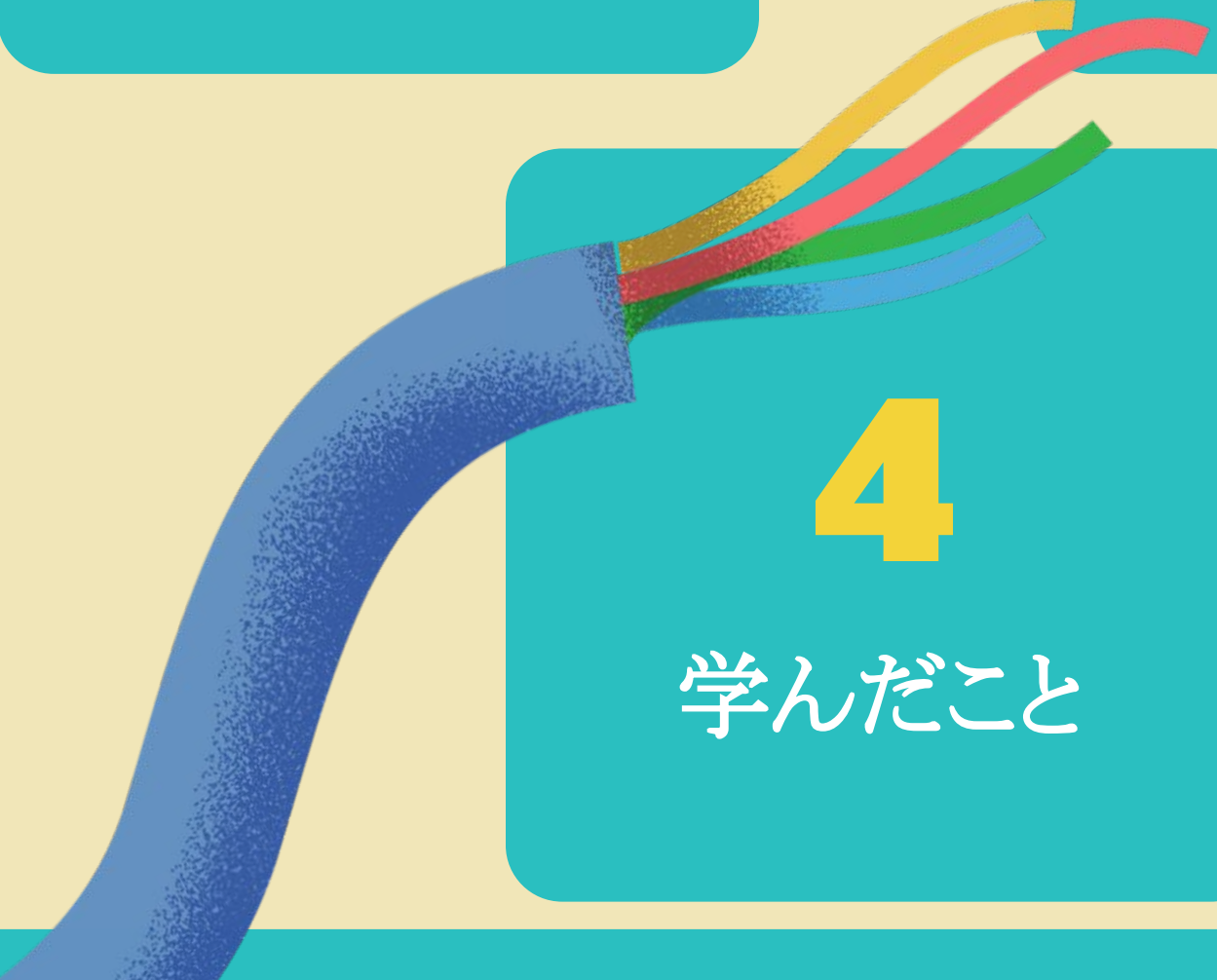
開発背景

2

技術スタック

3

工夫点

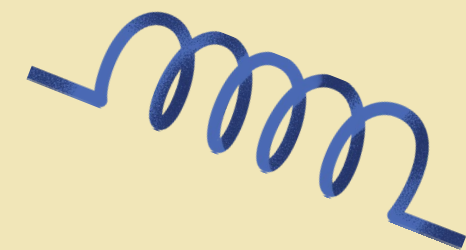


4

学んだこと

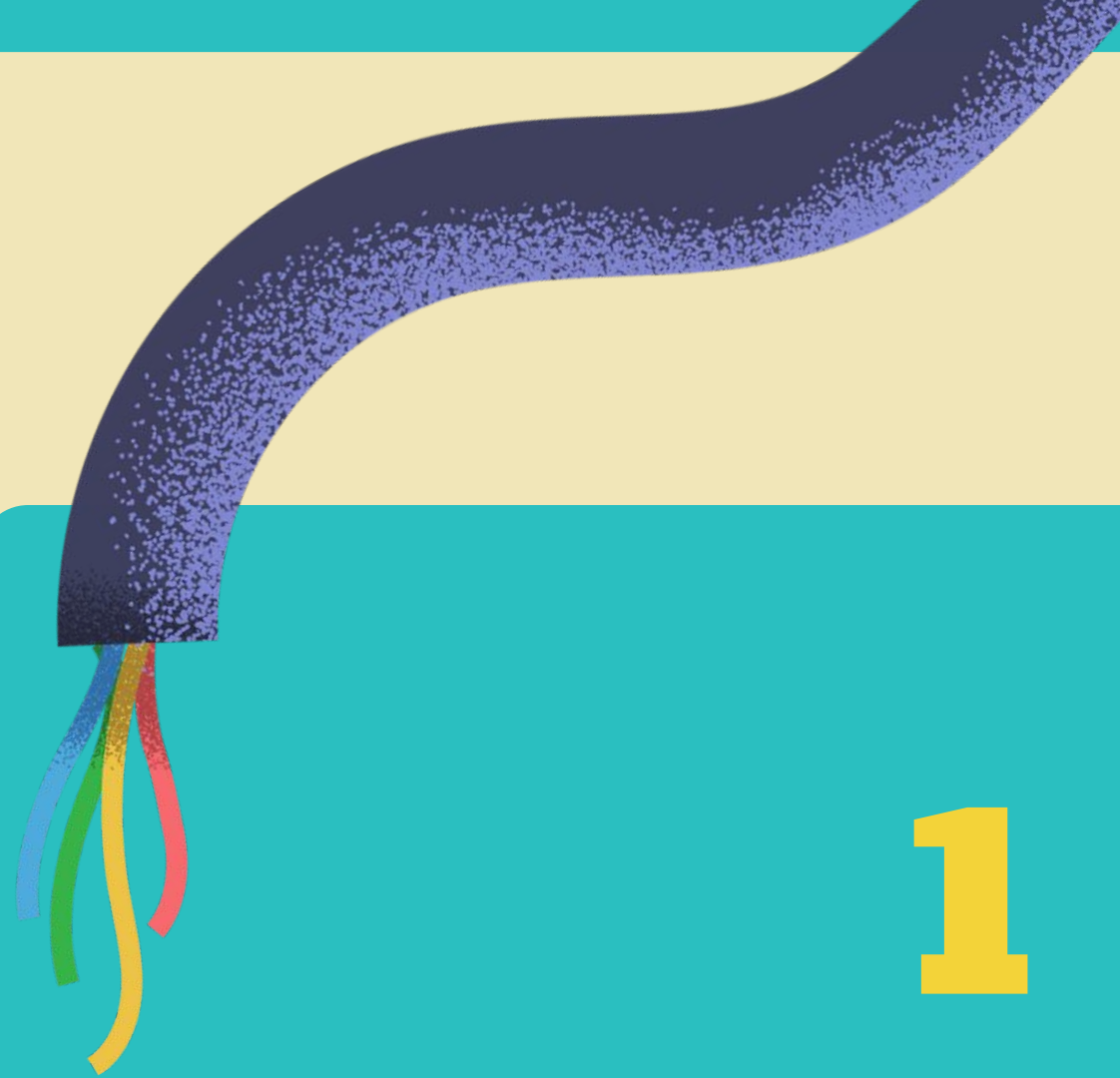
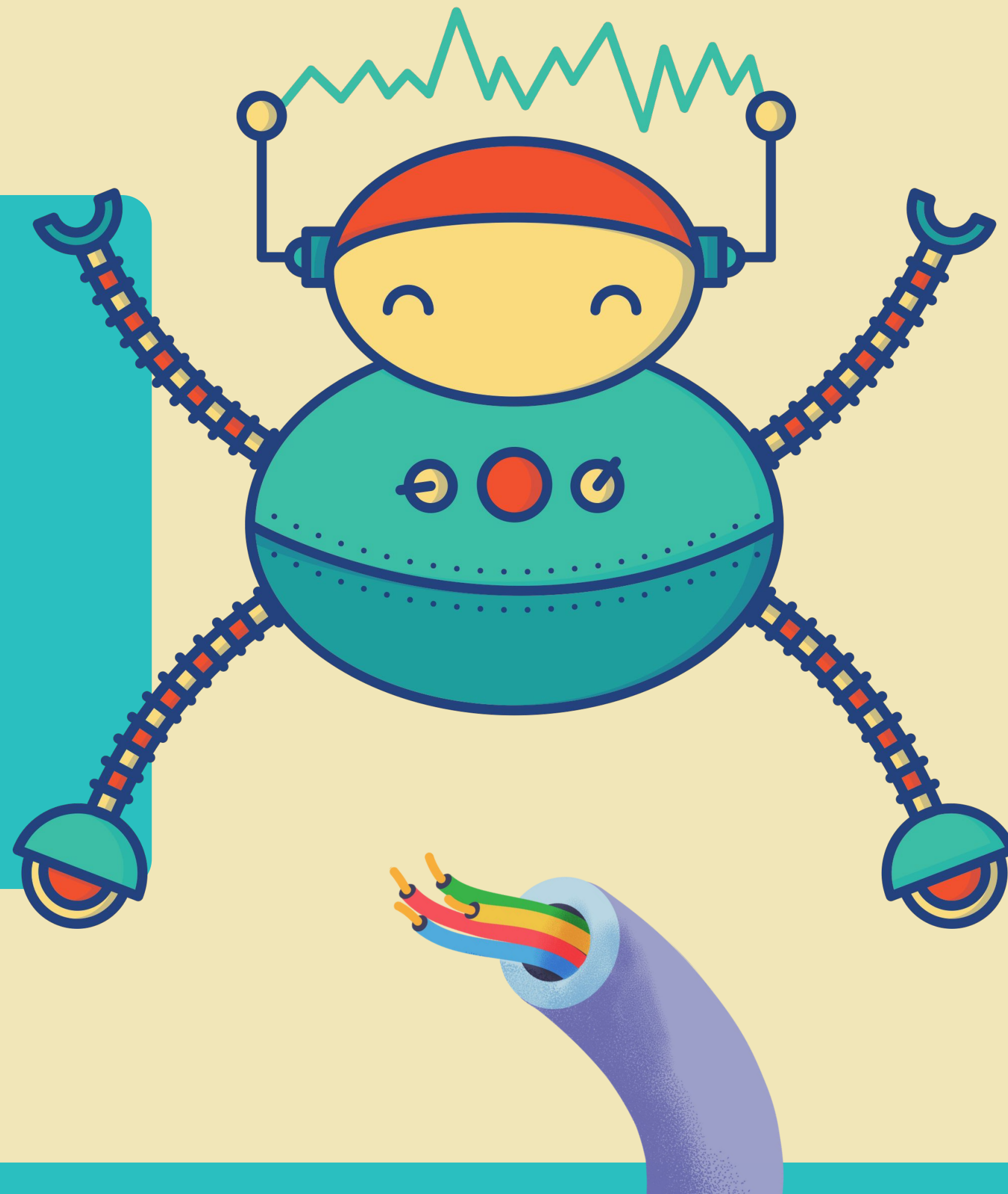
5

今後の展望



1

開發背景





開発背景

1

単語の意味
を毎回手入
力する作業
が非効率

2

類義語や例
文も学習し
たい

3

Webとモバ
イル両方で
勉強したい

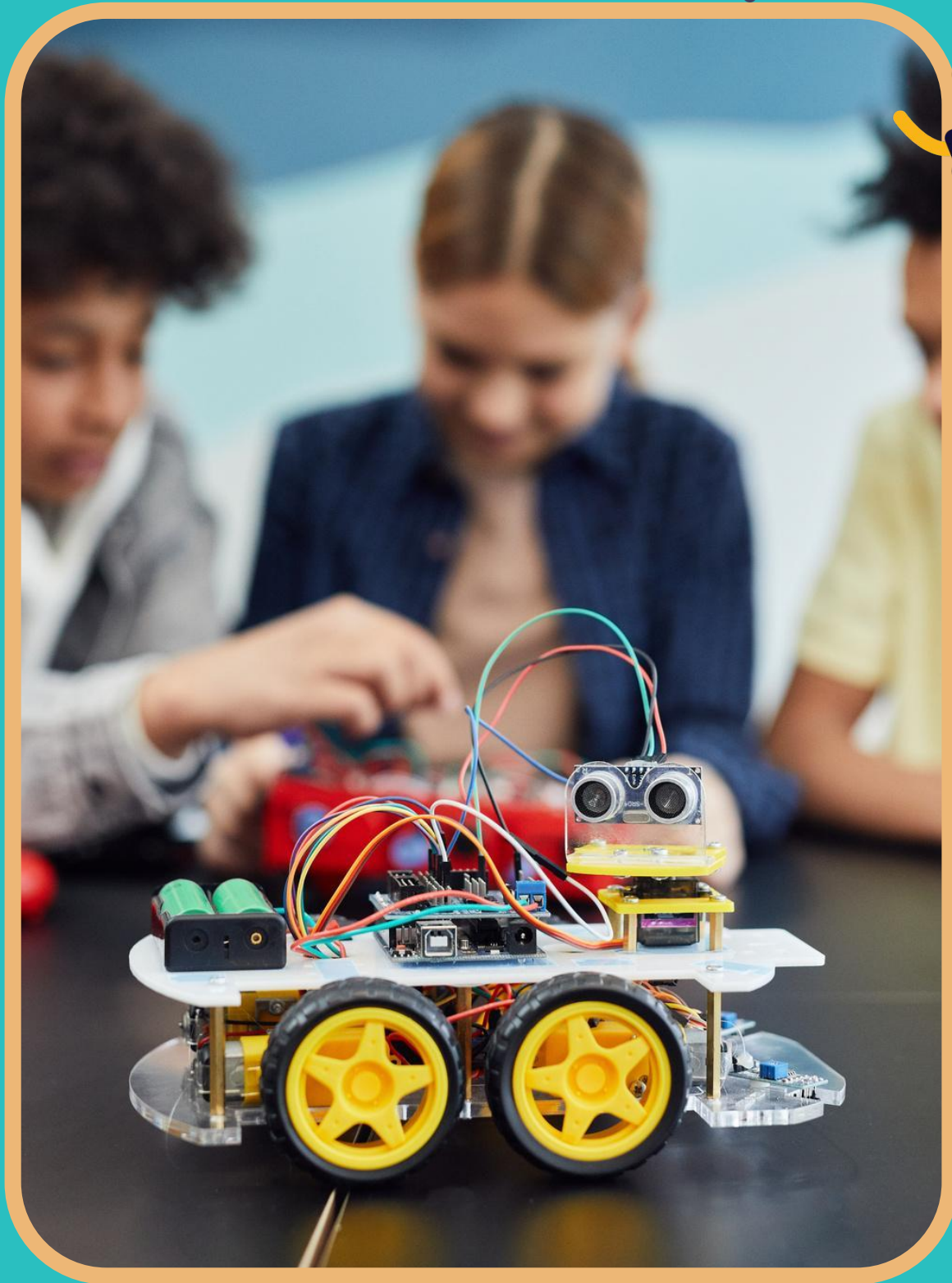
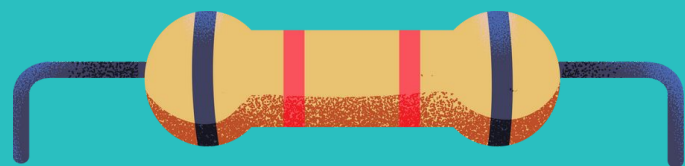




開発背景

- 英単語学習の効率化を目指し、AI技術を活用したアプリを開発
- Web,モバイル(開発中)でいつでもどこでも学習できる環境を作る





2 技術スタック



技術スタック

frontend



Next.js



Tailwind CSS



React Native



zustand

backend

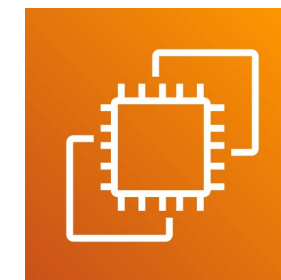


Fast API



Firebase
Authentication/firestore

infrastructure

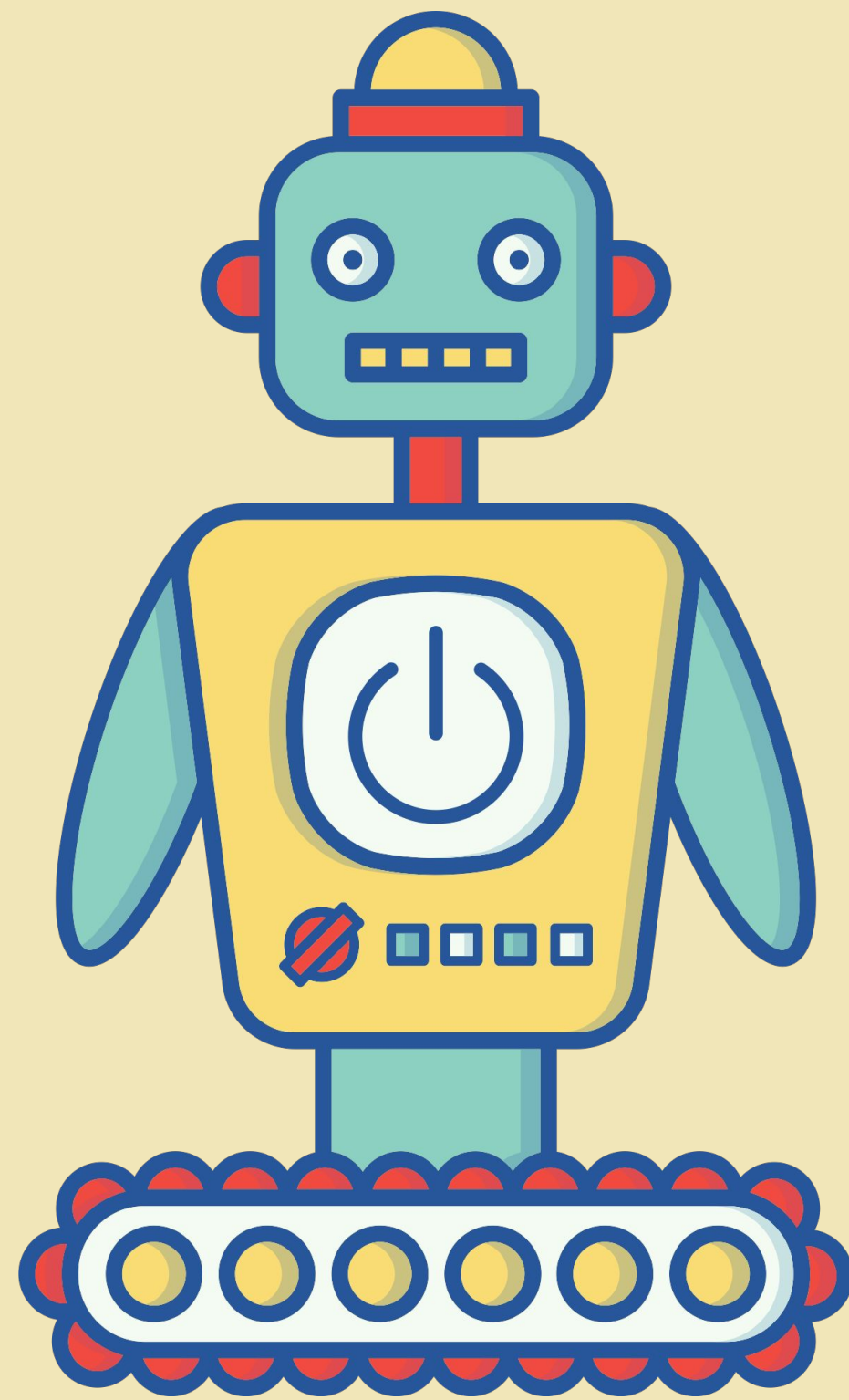


AWS EC2



Docker
compose

3 工夫点



工夫点

AIによる自動生成

単語を登録するだけでAI
が自動で意味生成

RAGによる生成補助

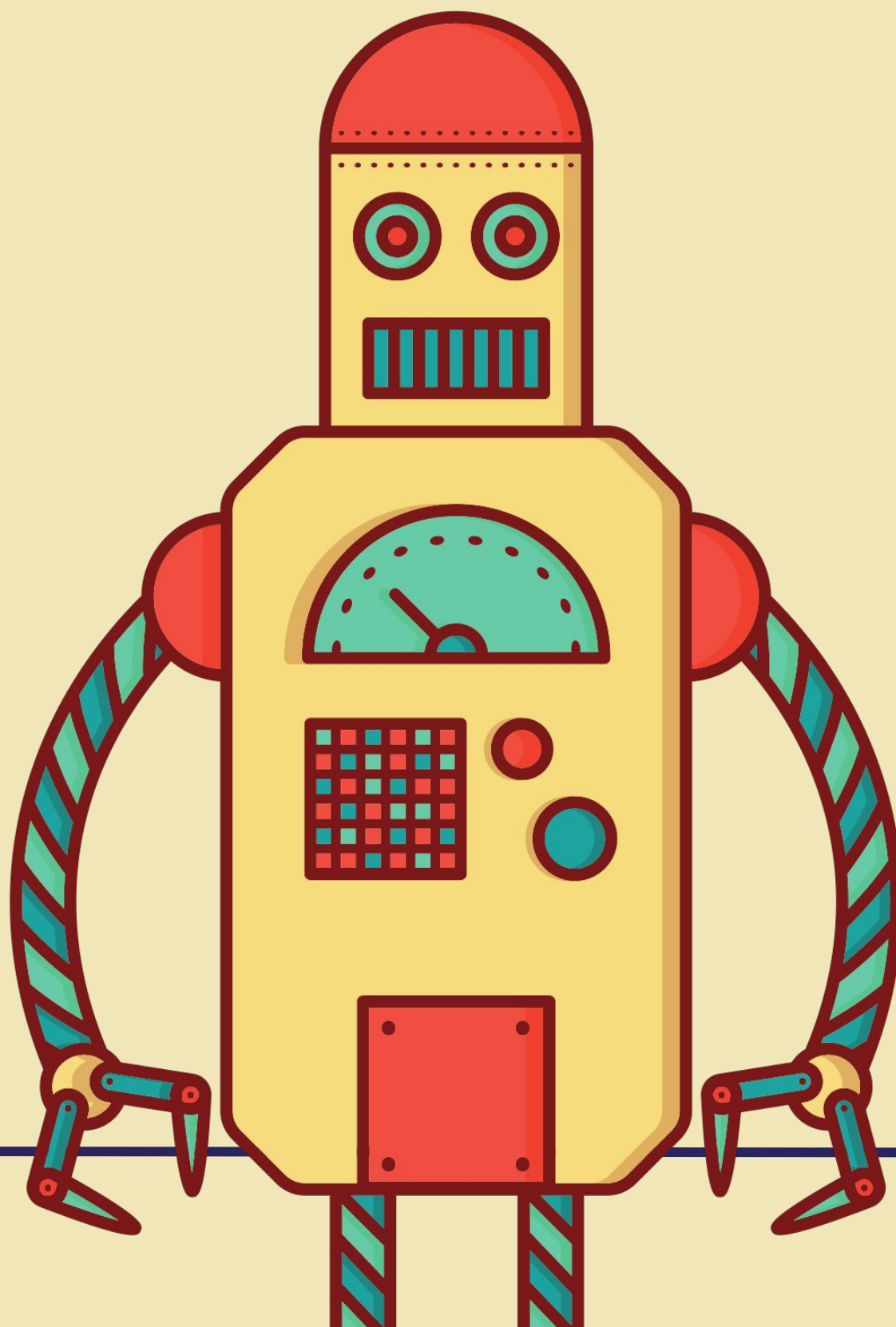
RAG技術を作成し、より
正確な情報を生成

AIエージェントを活用

AIを活用して高速開発

Webとモバイルの共通化

共通ロジック・型、API
を利用し開発を効率化



工夫点

AIによる自動生成

単語を登録するだけで AI
が自動で意味生成

単語を登録するだけで、AI
が自動的に例文や類義語
を生成し、学習効率を向
上。

RAGによる生成補助

RAG技術を作成し、より
正確な情報を生成

Webとモバイルの共通化

共通ロジック・型、APIを
利用し開発を効率化

工夫点

AIによる自動生成

単語を登録するだけで AI
が自動で意味生成

AIエージェントを活用

AIを活用して高速開発

RAGによる生成補助

RAG技術を作成し、より
正確な情報を生成

外部辞書を参照することで
より文脈にあった意味生成
を可能に

工夫点

型定義・スキーマの自動生成。バグやリファクタリングの提案

RAGによる生成補助

RAG技術を作成し、より正確な情報を生成

AIエージェントを活用
AIを活用して高速開発

Webとモバイルの共通化

共通ロジック・型、APIを利用し開発を効率化

工夫点

AIによる自動生成

単語を登録するだけで AI
が自動で意味生成

AIエージェントの活用

AIを活用して高速開発

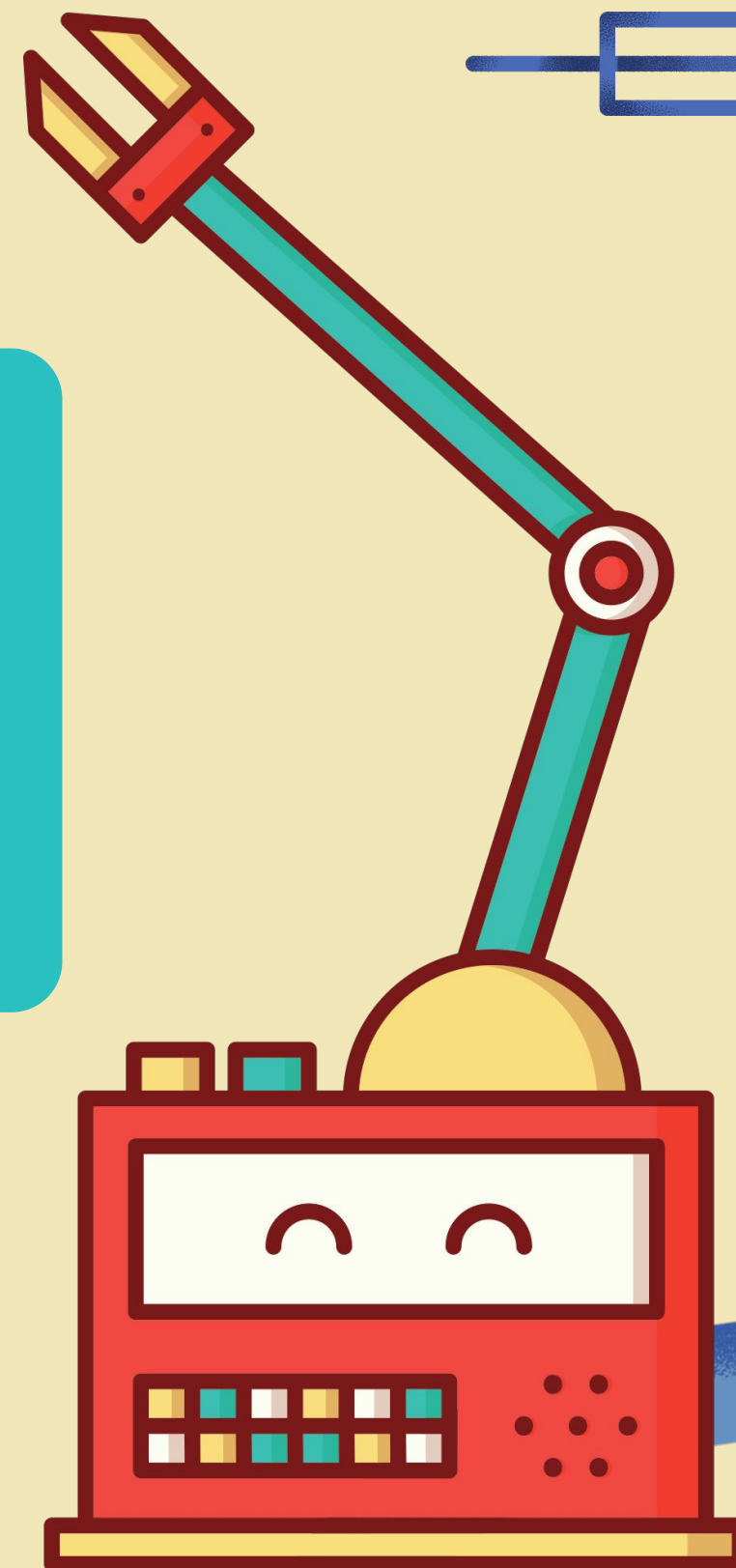
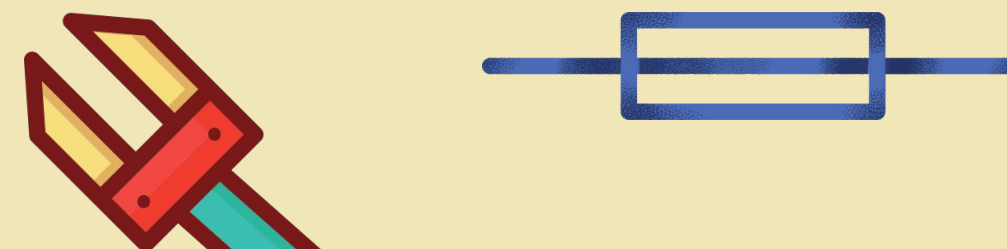
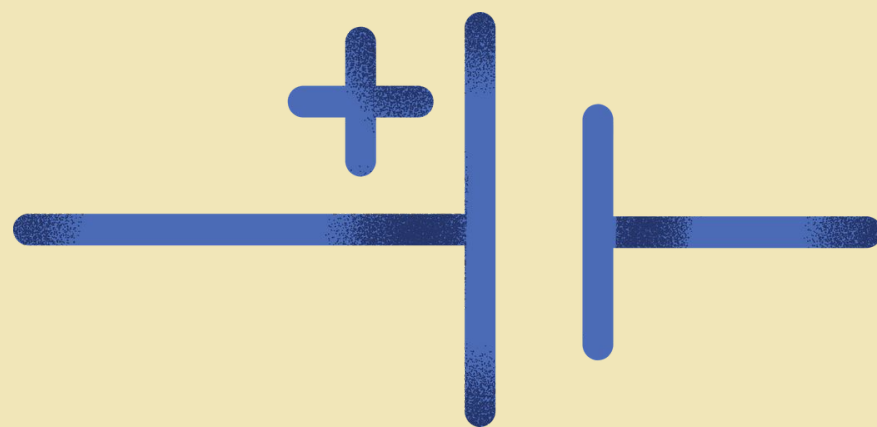
複数プラットフォームでの開
発効率と品質を両立

Webとモバイルの共通化

共通ロジック・型、API
を利用し開発を効率化

4

学んだこと





学んだこと



モダンなフルスタック開発

Next.jsやReact Native、FastAPIなどの最新技術を用いたWeb・モバイル・APIの一貫した開発フローを経験し、設計から実装・デプロイまで一通り自走できる力が身につきました。

AIエージェントを用いた開発

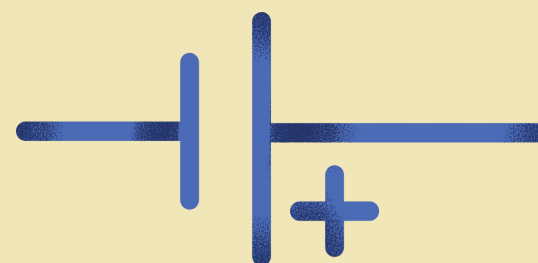
実装内容ごとに重要度・優先度を決めてAIの実装をレビューする力を身につけ、AI生成のメリットを得つつ品質を維持する方法を学びました。

ユーザー目線での機能設計・改善

自身の学習体験や使用者からのフィードバックをもとに、UI/UXや機能要件を何度も見直し、使いやすさ・学習効率を重視した設計の大切さを実感しました。

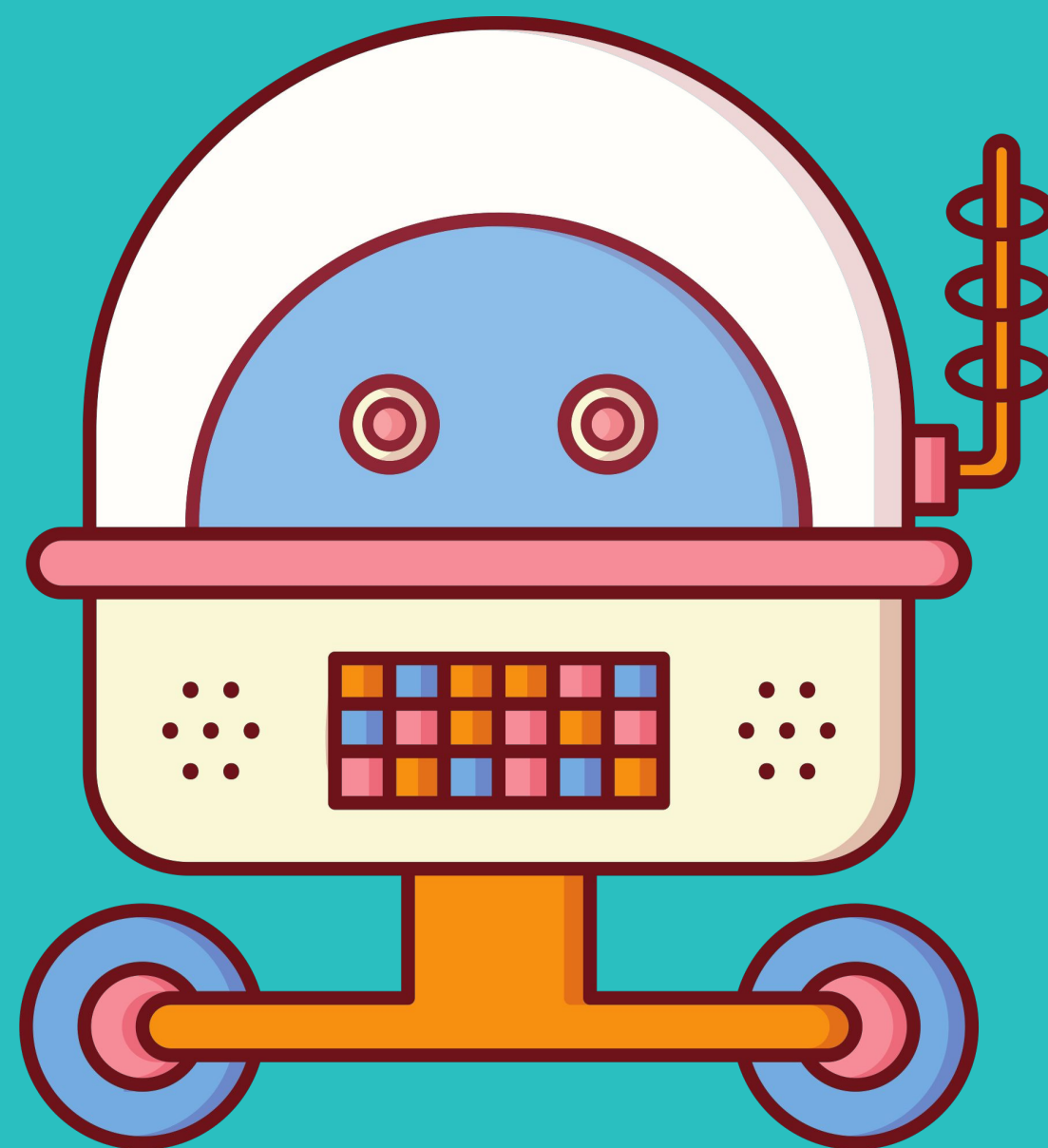
インフラの基礎知識

Dockerによる環境構築、Nginx+CertbotによるSSL化、EC2へのデプロイなど、サービスデプロイまでに必要なインフラの知識が身につきました。



5

今後の展望



今後の展望

1

テストを作成し、保守性
・拡張性を向上させる

2

CI/CDを構築し、開発体験を
向上させる

3

機能面での拡張(多言語対
応、オフライン学習など)

4

ユーザーからのフィードバックを
もとにしたUI/UXの継続改善

5

モバイルアプリ化(開発中)

6

LLMモデル・RAG技術を再検
討し、自然な意味生成